

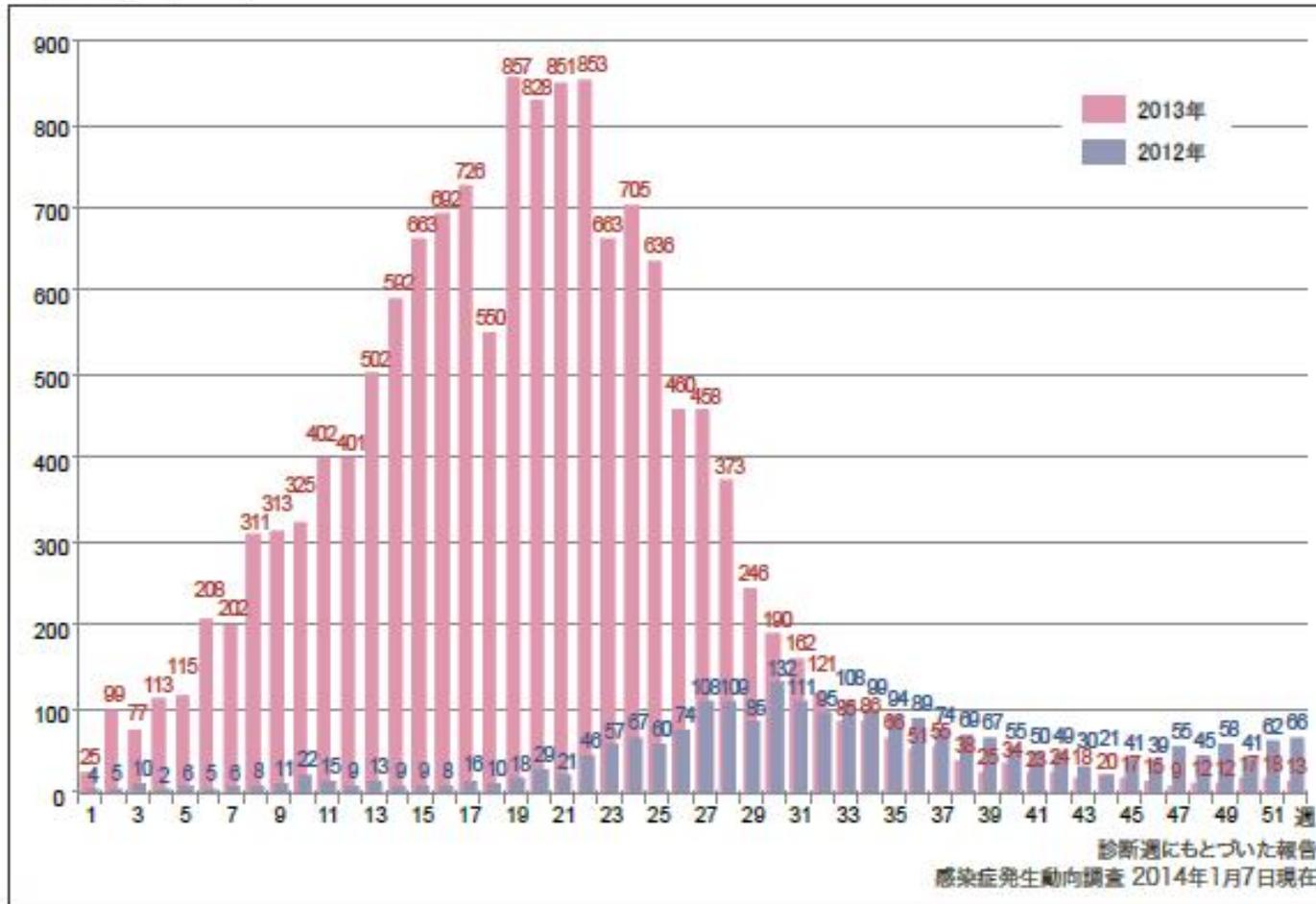
大阪府における風しん、麻しん について



2013年の風しん流行状況

2. 週別風しん報告数 2013年第1~52週 (n=14,357)

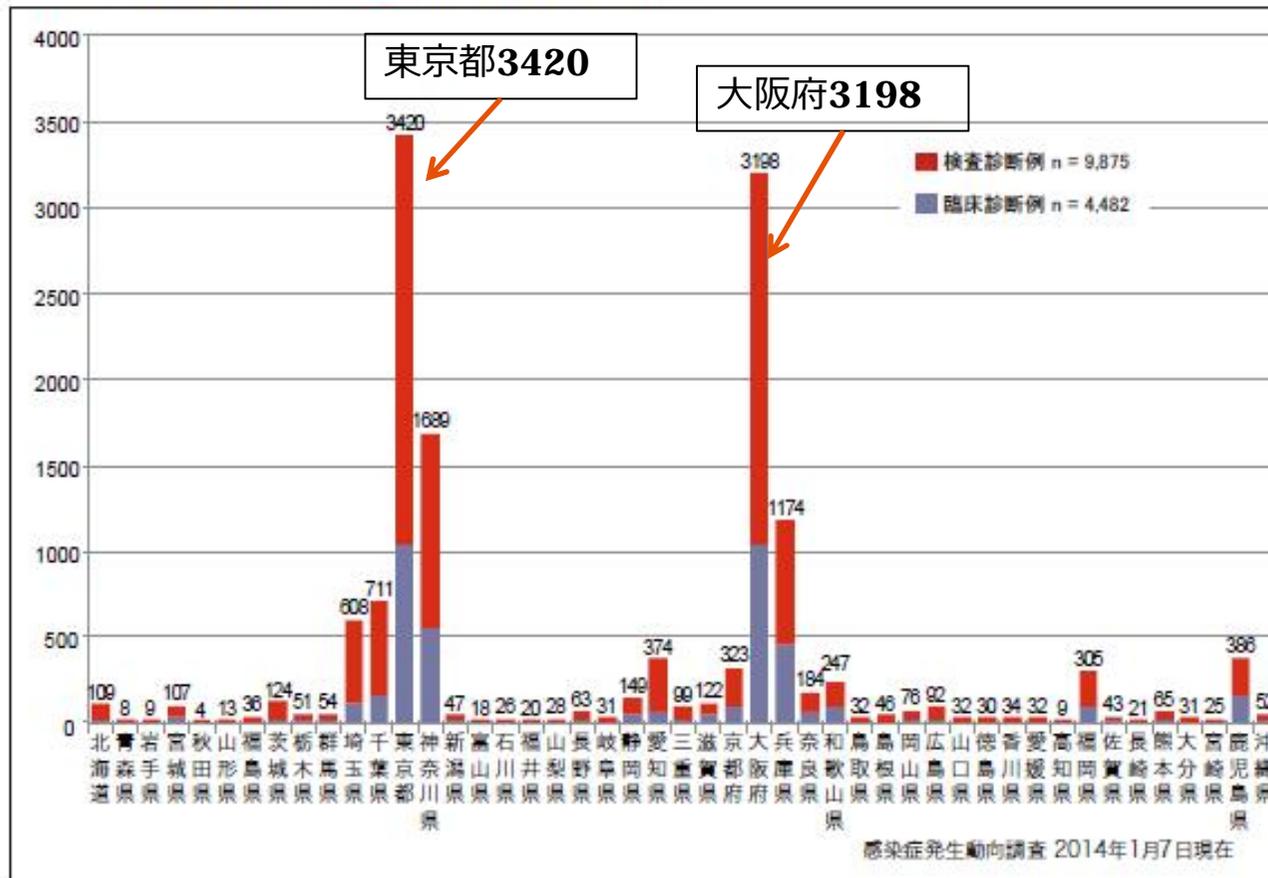
Weekly rubella cases from week 1 to week 52, 2013 (based on diagnosed week as of January 7, 2014).



都道府県別風しん累積報告数

4. 都道府県別病型別風しん累積報告数 2013年第1~52週 (n=14,357)
 Cumulative rubella cases by prefecture and methods of diagnosis from week 1 to week 52, 2013
 (as of January 7, 2014).

■ Clinically diagnosed ■ Laboratory diagnosed

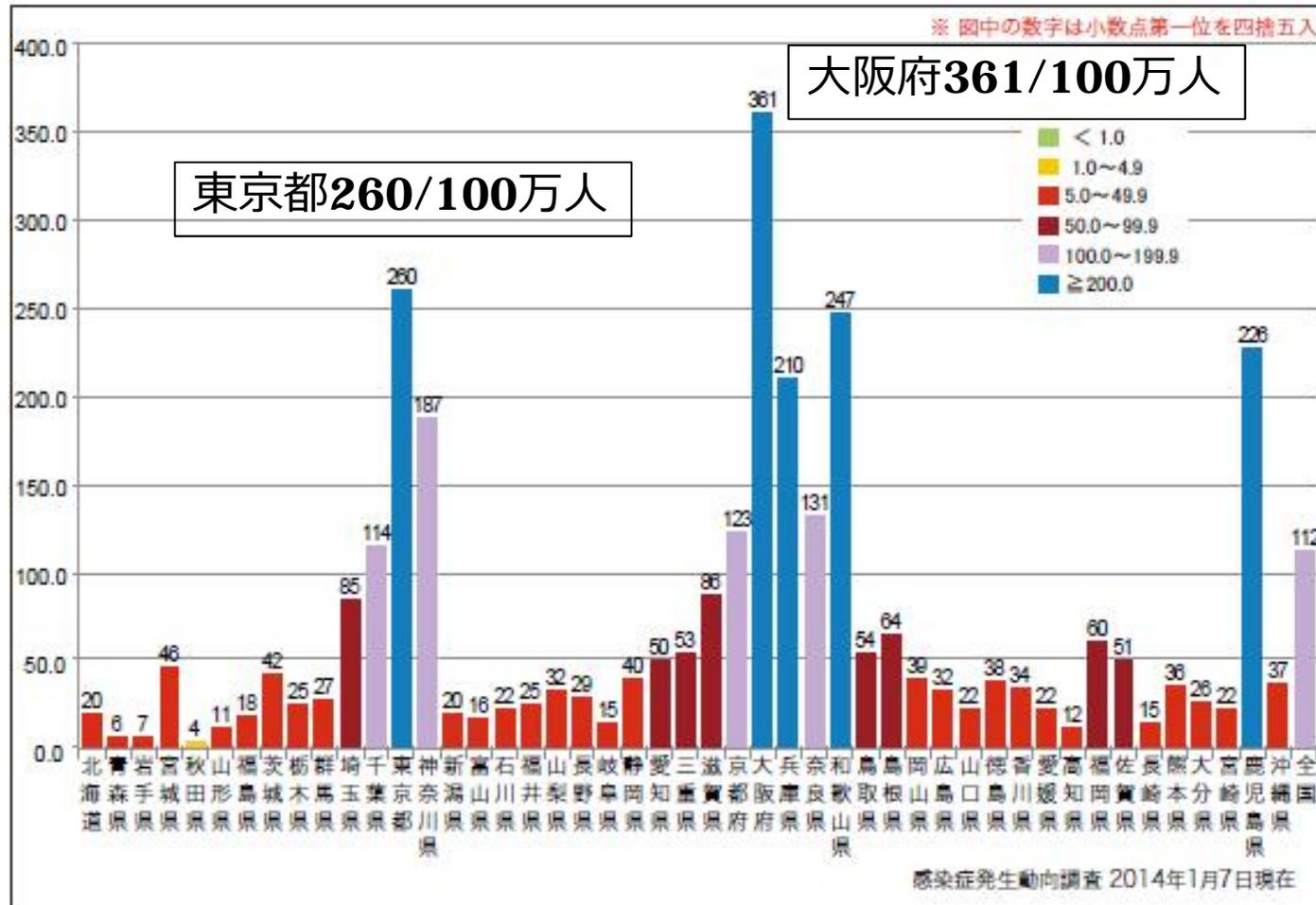


人口100万あたりの風しん累積報告数

8. 都道府県別人口百万人あたり風しん報告数 2013年 第1～52週 (n=14,357)

Number of reported cases per 1 million population by prefectures from week 1 to week 52, 2013
(as of January 7, 2014).

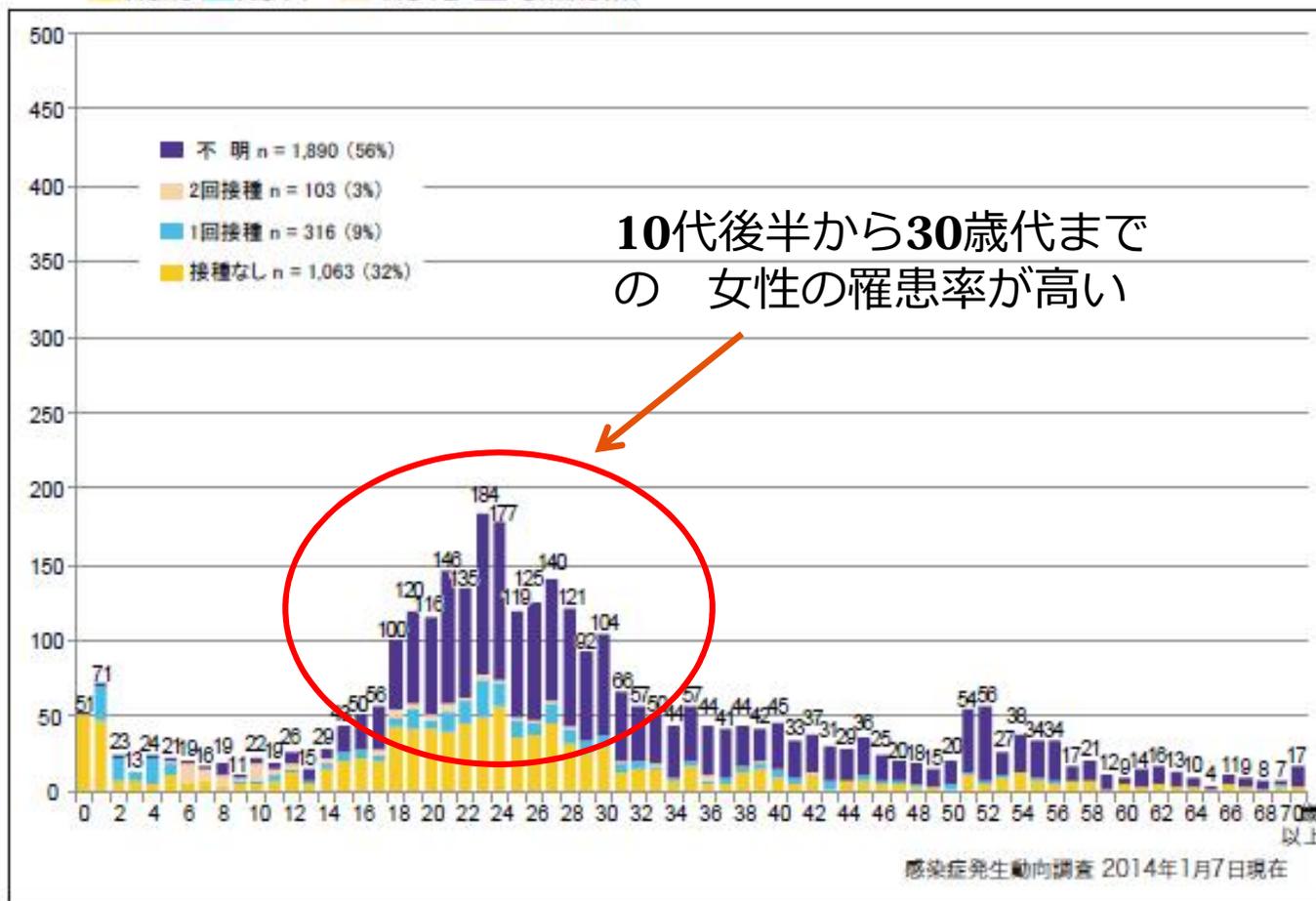
■ <1.0
 ■ 1.0～4.9
 ■ 5.0～49.9
 ■ 50.0～99.9
 ■ 100.0～199.9
 ■ ≥200.0



年齢群別風しん累積報告数

5-2. 年齢群別接種歴別風しん累積報告数（女性） 2013年第1～52週（n=3,372）
 Cumulative rubella cases (female) by age and vaccinated status from week 1 to week 52
 2013 (as of January 7, 2014).

■ None ■ RCV1 ■ RCV2 ■ Unknown



10代後半から30歳代までの女性の罹患率が高い

先天性風しん症候群（CRS）について

定義

風しんウイルスの胎内感染によって先天異常を起こす感染症である

臨床的特徴

妊娠12週までの妊娠初期の初感染に最も多くみられ、20週を過ぎるとほとんどなくなる

白内障、先天性心疾患、難聴

その他先天性緑内障、色素性網膜症、紫斑、脾腫、小頭症、精神発達遅滞、髄膜脳炎、骨のX線透過性所見、生後24時間以内に出現する黄疸など

(3) 届出基準

ア：患者（確定例）

臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から先天性風しん症候群が疑われ、かつ、(4)の届出に必要な要件を満たすと診断した場合には、法第12条第1項の規定による届出を7日以内に行わなければならない。

イ：感染症死亡者の死体

医師は、(2)の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、先天性風しん症候群が疑われ、かつ、(4)の届出に必要な要件を満たすと診断した場合

(4) 届出に必要な要件 (以下のア及びイの両方を満たすもの)

ア届出のために必要な臨床症状

(ア) CR典典型例 ; 「(1)から2項目以上」又は「(1)から1項目と(2)から1項目以上」

(イ) その他 ; 「(1)若しくは(2)から1項目以上」

(1)白内障又は先天性緑内障、先天性心疾患、難聴、色素性網膜症

(2)紫斑、脾腫、小頭症、精神発達遅滞、髄膜脳炎、X線透過性の骨病変、生後24時間以内に出現した黄疸

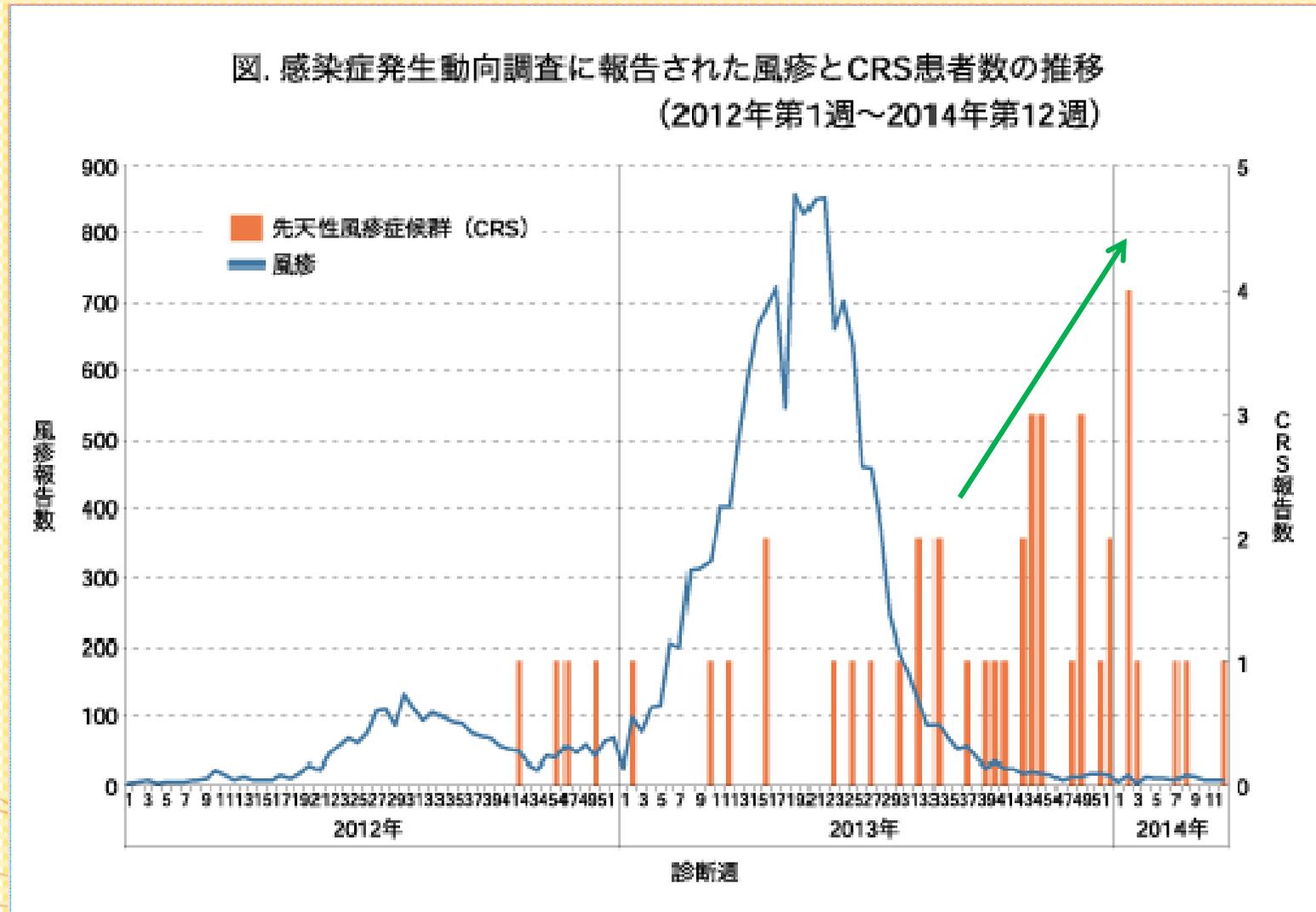
イ病原体診断又は抗体検査の方法

(ア) 以下のいずれか1つを満たし、出生後の風しん感染を除外できるもの

検査方法	検査材料
分離・同定による病原体の検出	咽頭拭い液、唾液、尿
PCR法による病原体の遺伝子の検出	
IgM抗体の検出	血清
赤血球凝集阻止抗体価が移行抗体の推移から予想される値を高く越えて持続(出生児の赤血球凝集阻止抗体価が、月あたり1/2の低下率で低下していない。)	

先天性風しん症候群の推移

図. 感染症発生動向調査に報告された風疹とCRS患者数の推移
(2012年第1週～2014年第12週)



先天性風しん症候群の報告数

	報告（全国）	報告数（東京）	報告数（大阪）	感染推定地域（東京）	感染推定地域（大阪）
2004年	10	3	0		
2012年	4	0	0	0	0
2013年	32	13	5	9	6
2014年	8	3	1	2	1

2014年3月26日 現在の報告（国立感染症研究所）

風しん罹患歴	2013年+2014年の計 （40件中）
あり	27
なし	9
不明	4

	母親の風しん罹患歴と時期	罹患時の妊娠週数	ワクチン歴	患児の症状	患児の症状
1	あり (2012年)	妊娠 10 週	なし	先天性心疾患	紫斑 X線透過性の骨病変
2	あり (2013年2月)	妊娠 7 週	不明	難聴、 色素網膜炎	髄膜脳炎
3	あり (2013年2月)	妊娠 9 週	なし	難聴	
4	不明?	不明?	不明	難聴	黄疸
5	あり 2013 年5月	妊娠 18 週	不明		髄膜脳炎
6	なし		あり (一回接種)	難聴	紫斑 脳実質の石灰化

	PCR陽性検出検体	患児血清IgM
1	咽頭ぬぐい液	陽性
2	血液	陽性
3	咽頭ぬぐい液、尿、髄液	陽性
4	血液	陽性
5	PCR 検出なし	陽性（臍帯血も陽性）
6	咽頭ぬぐい液、尿	陰性

患児の咽頭ぬぐい液や血液からの**PCR**検査にて陰性で、患児血清の**IgM**陽性にて**CRS**と診断された症例もあります。

CRSについて

風しんの報告数

東京＞大阪ですが

100万人対では

大阪＞東京です。

しかし、**CRS**の報告数は

東京＞大阪となります。

CRSの症例が見落とされている可能性があります。



先天性風しん感染／症候群

先天性風しん症候群

早期発見が重要⇒耳、眼、心臓などの合併症治療や療育支援

乳児期からウイルスが継続的に排出するため、感染伝播予防になります

先天性風しん感染

母親が妊娠中に風疹に罹患したまたは推測され、患児の症状が、**CRS**の典型的な臨床症状は認められないが、出生児の抗風疹**IgM**抗体が陽性であるケースを先天性風疹感染（**CRI**）と分類します。**CRI**につきましても、継続的にウイルス排泄が認められる可能性があり、**CRS**同様継続的なウイルス学的検査の実施が必要とされています。

風しんは不顕性感染（風邪症状のみ、発疹なし）をきたす場合もあります。母親の風しん罹患ははっきりしないが、乳幼児健診などで視力障害、難聴などがありましたならば、**CRS**などを疑う必要もあるかもしれません。

CRS/CRIを疑い、ウイルス検索などが必要な場合には、大阪府公衆衛生研究所などへ連絡を。医療機関所在地などにより、担当部署が異なりますので、大阪府感染症情報センター風しん情報（先天性風疹症候群・先天性風疹感染に関する相談窓口）を参照してください

URL：<http://www.iph.pref.osaka.jp/kansen/zbs/zfs.html>

麻しんについて

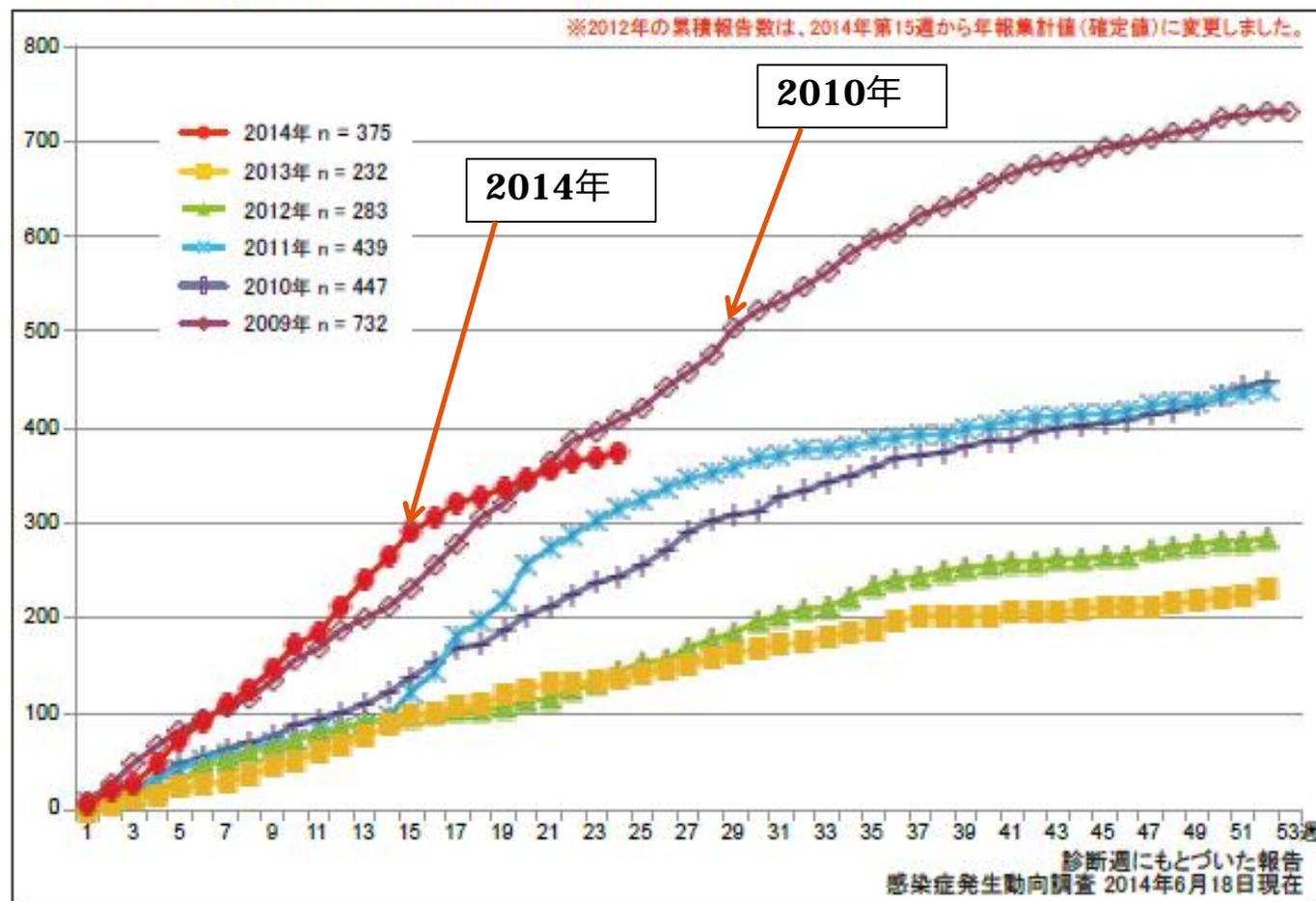


麻疹累積報告数

1. 麻疹累積報告数の推移 2009～2014年(第1～24週)

Cumulative number of measles cases by week, 2009-2014 (week1-24)

(based on diagnosed week as of June 18, 2014).

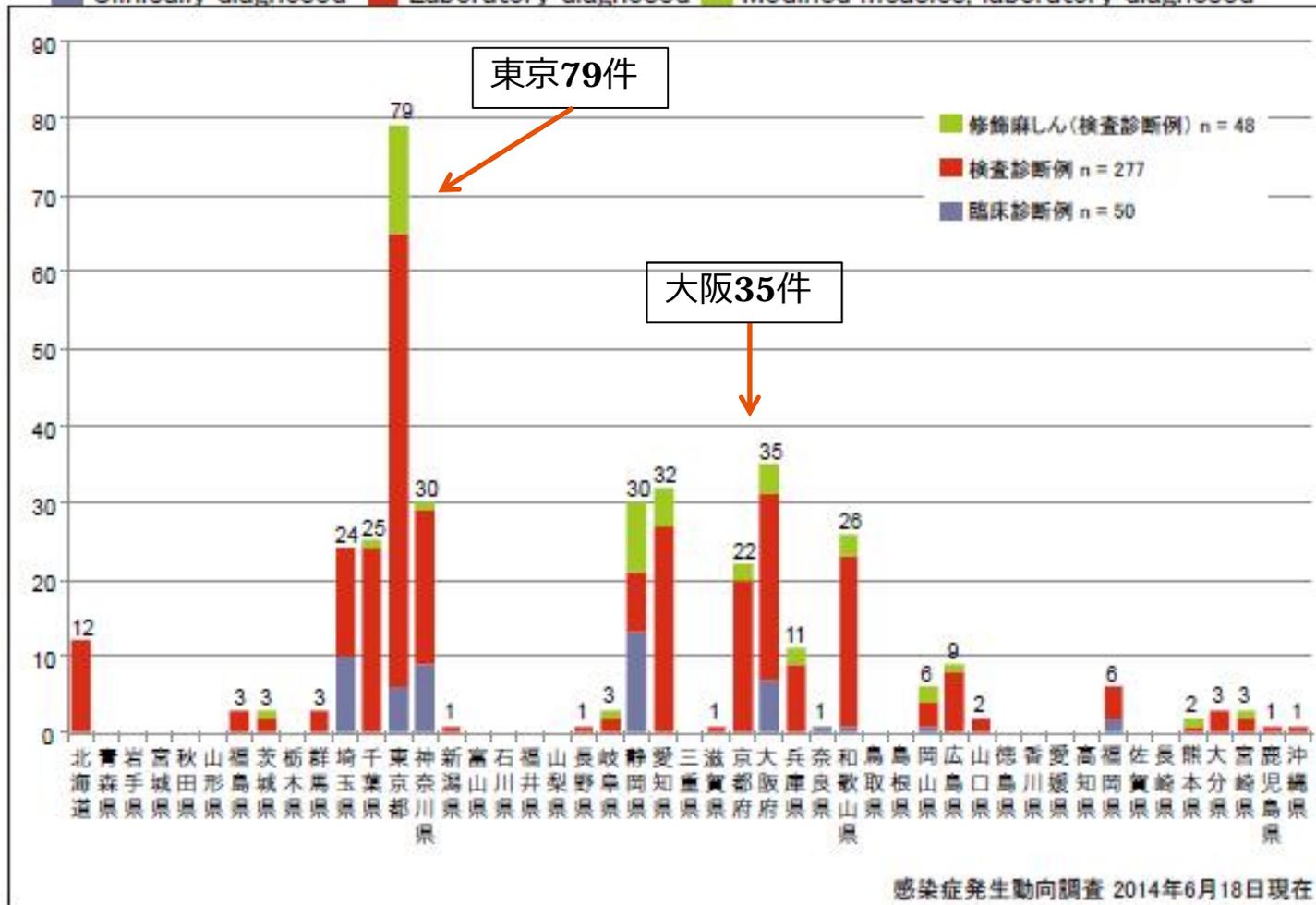


都道府県別麻疹累積報告数

4. 都道府県別病型別麻疹累積報告数 2014年 第1~24週 (n=375)

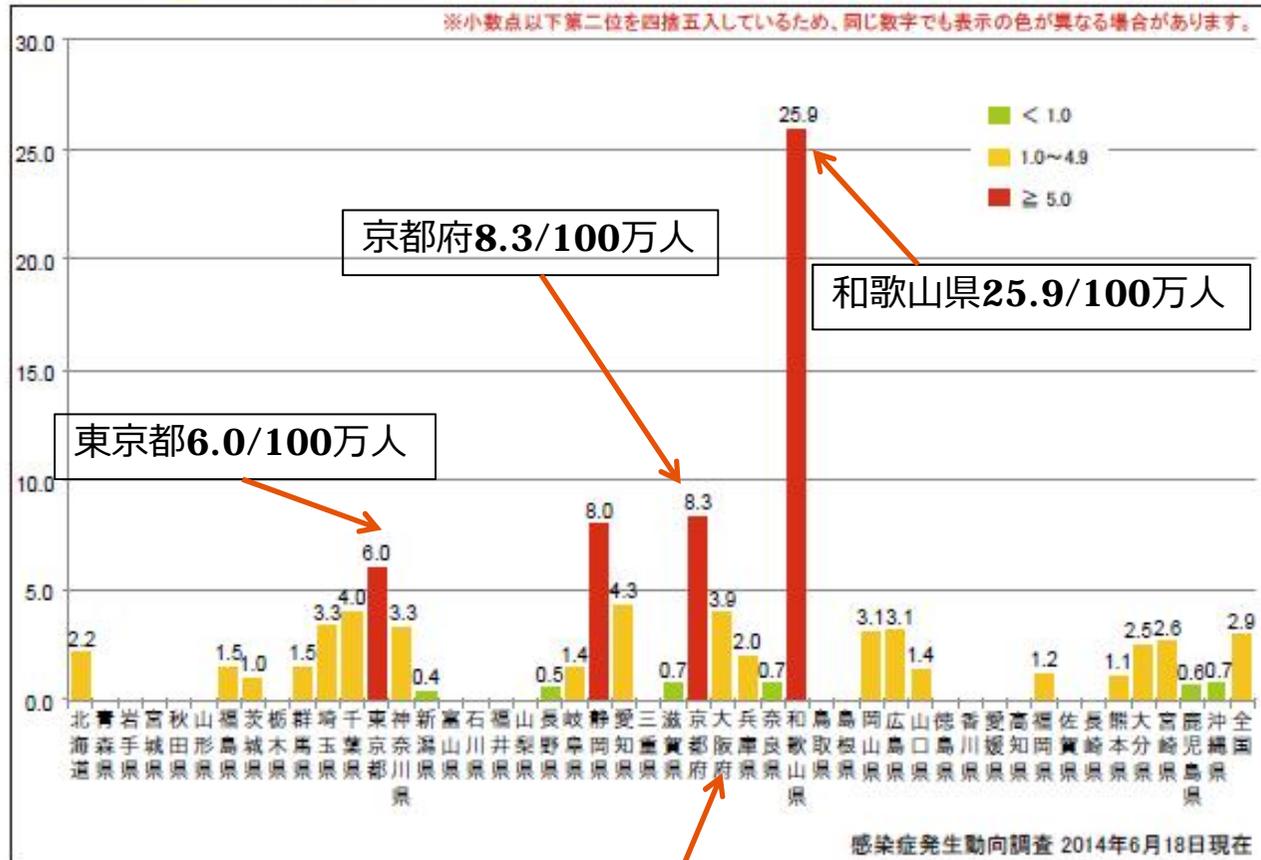
Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis from week 1 to week 24, 2014 (as of June 18, 2014).

■ Clinically diagnosed
 ■ Laboratory diagnosed
 ■ Modified measles, laboratory diagnosed



都道府県別人口百万人当たり麻疹報告数

9. 都道府県別人口百万人あたり麻疹報告数 2014年 第1~24週 (n=375)
 Number of reported cases per 1 million population by prefectures from week 1 to week 24, 2014
 (as of June 18, 2014).
 ■ < 1.0 ■ 1.0~4.9 ■ ≥ 5.0



京都府8.3/100万人

和歌山県25.9/100万人

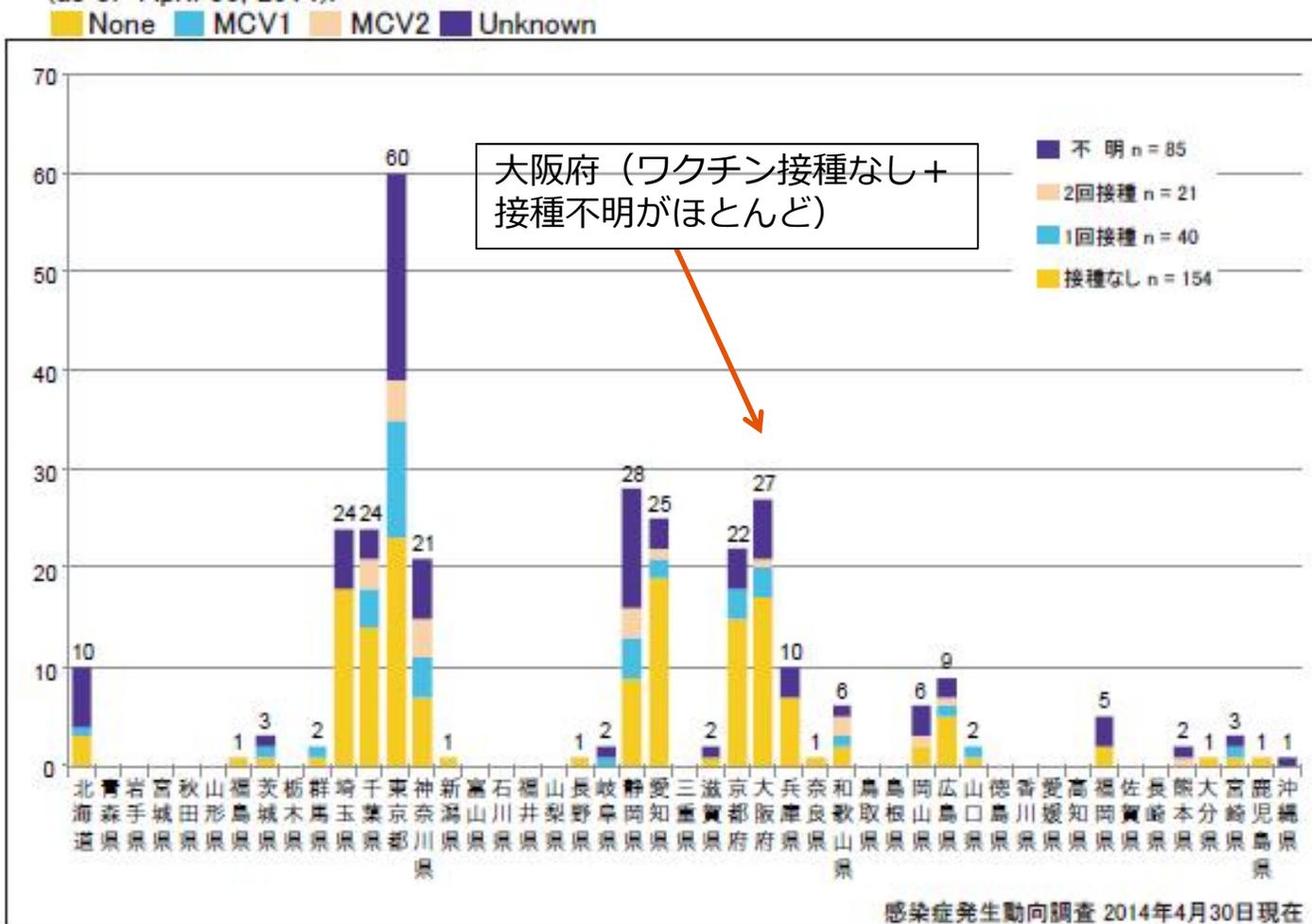
東京都6.0/100万人

大阪府3.9/100万人

都道府県別接種歴別麻疹累積報告数

5. 都道府県別接種歴別麻疹累積報告数 2014年 第1~17週 (n=300)

Cumulative measles cases by prefecture and vaccinated status from week 1 to week 17, 2014 (as of April 30, 2014).



麻しんについて

麻しん、風しんとともに診断した場合には、感染症法に基づき保健所へ24時間以内に報告することになっておりますのでご協力をお願いします。

また、麻しんにつきましては確定診断（検体採取）ならびに積極的疫学調査の対象となっております。そのため、保健所から検体提出ならびに積極的疫学調査の協力依頼があった場合には、ご協力のほどよろしくをお願いします。

